

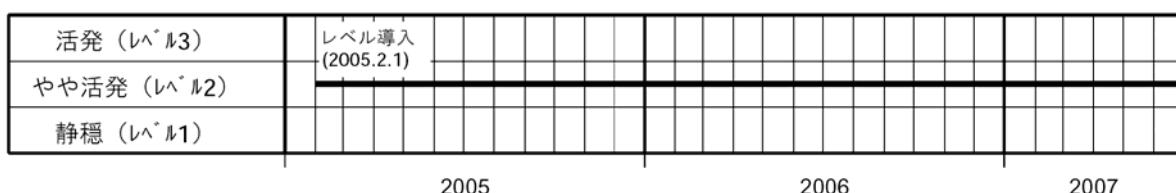
# 口永良部島

## 火山活動評価：やや活発な状況（レベル2）

火山性地震や火山性微動がやや多く、火山活動はやや活発な状態で経過しました。

2005年2月1日の導入以降、レベル2が継続しています。

### 火山活動度レベルの推移



### 概況

#### ・噴煙活動

監視カメラでは新岳・古岳の噴気は観測されませんでした。

#### ・地震、微動活動（図2、図3）

火山性地震はやや多い状態が続いており、月回数は157回（5月：109回）でした。火山性地震の震源は、新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。火山性微動は、2006年10月からやや多い状態が続いており、月回数は27回（5月：51回）でした。

#### ・地殻変動（図1、図4）

GPS連続観測では、昨年9月以降見られていた新岳の膨張を示す傾向は、昨年12月以降鈍化しています。

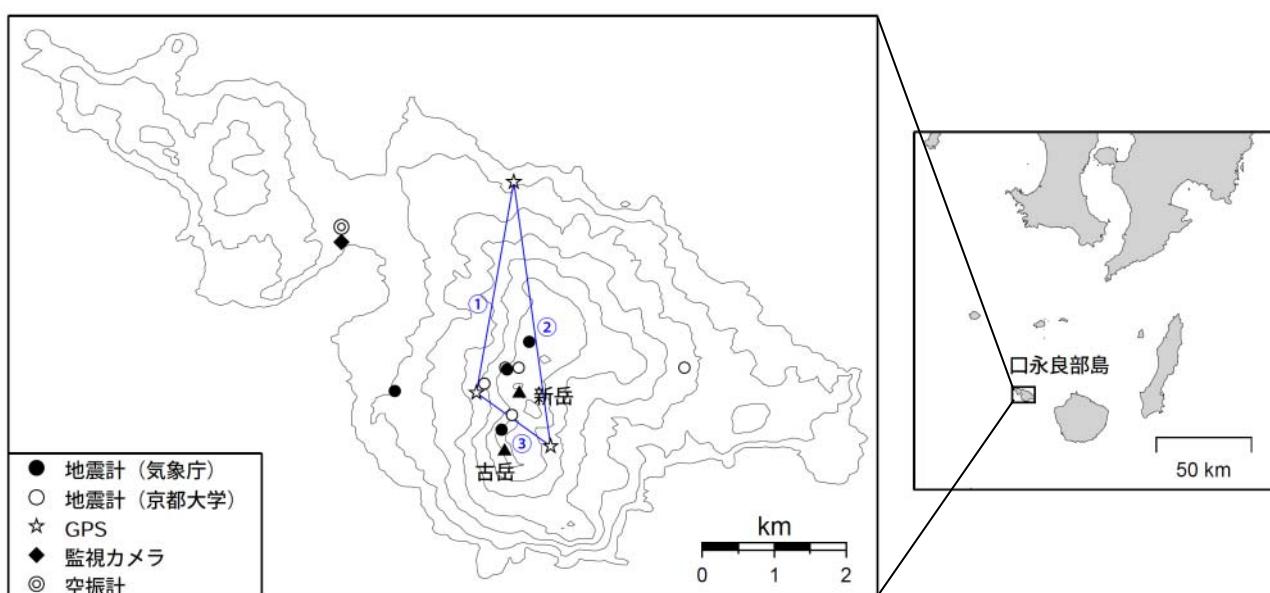


図1 口永良部島 観測点配置図

この資料の作成に当たっては、気象庁のデータの他、京都大学のデータも利用して作成しています。

地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しました（承認番号：平17総使、第503号）。

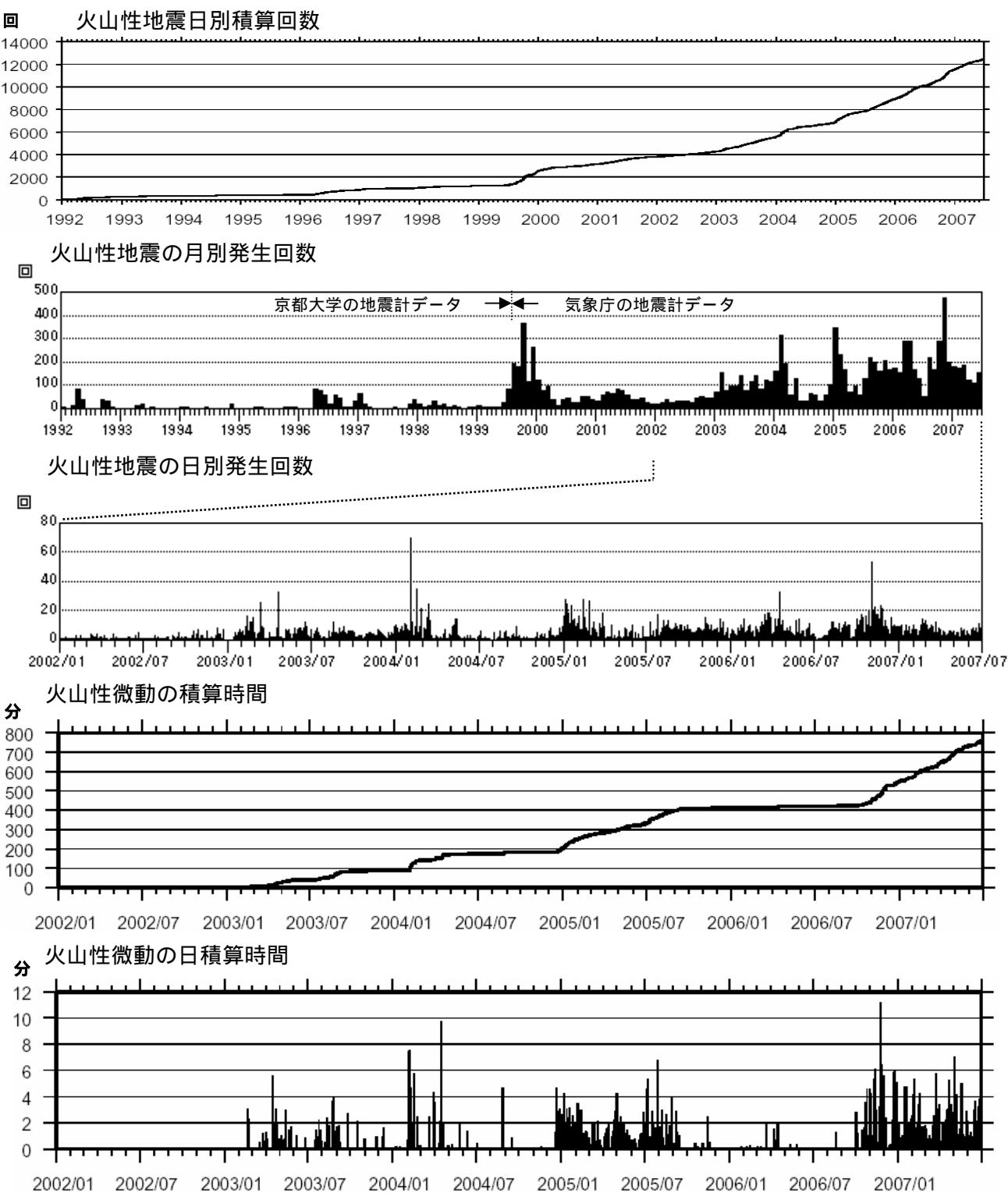


図2 口永良部島 火山性地震・微動活動経過図(1992年1月1日～2007年6月30日)

- ・2005年7月以降、火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いている。
- ・火山性微動は2003年2月から時々観測され、2006年10月以降、やや多い状態で推移しています。

\* 1982年1月1日～1999年9月12日及び2005年12月15～28日までは京都大学のデータを使用しました。

\* 2002年12月22日～2003年1月11日まで地震計1の機器障害のため欠測しました。また、2005年7月9日～9月18日、2005年11月5日～12月14日までは地震計1の機器障害のため、地震計3で回数を計数しました。

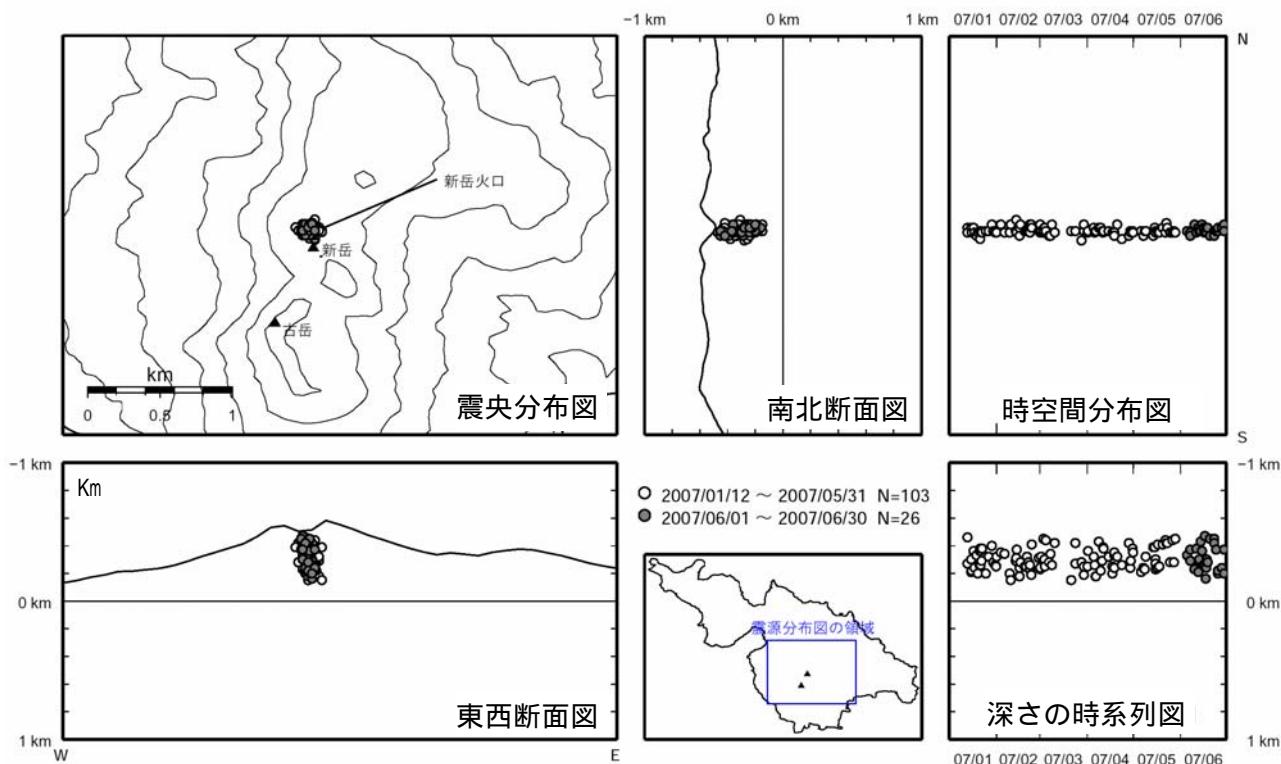


図3 口永良部島 震源分布図(2007年1月12日～6月30日)

- ・火山性地震の震源は、新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。
- \* 1月12日から京都大学のデータも用いて震源を求めていました。

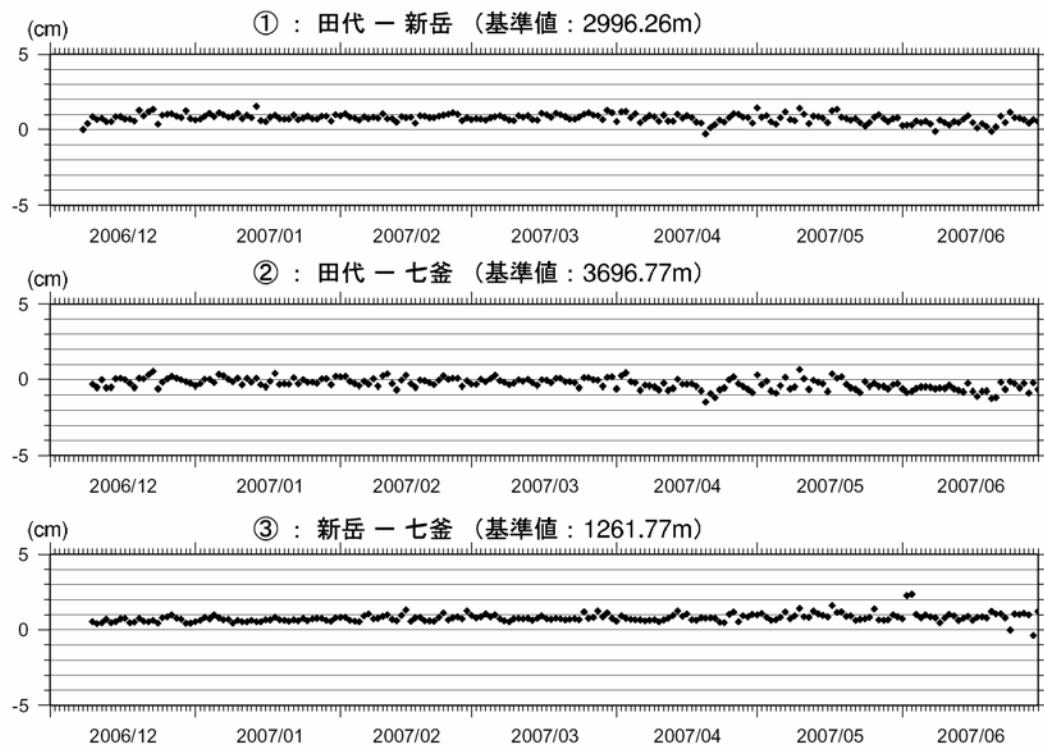


図4 口永良部島 GPS連続観測による基線長変化(2006年12月8日～2007年6月30日)

火山活動に起因するような変化はありませんでした。

この基線は図1の～に対応しています。